「飯南暮らしのススメ。」

町や県などの定住施策を通じて、飯南町にUターンやIターンをした人は、平成17年度～27年度までに、Iターン245人、Uターン43人です。グラフのように、年によって増減はありますが、昨年、一昨年は40人の人が、UIターンされています。

その反面、飯南町の人口は、合併から10年で約千人減少。少子高齢化、自動車道開通による交通量の減少など、地域課題も目につきます。そのような中、むしろ地域の活動は活発になり、新たに開業する人や、農業で頑張る人も増えています。

今回の特集では、町内にUIターンした皆さんに、飯南での暮らしについて、お話を聞きました。

自宅の薪ストーブ。部屋中に暖かさが行き渡ります

AR動画
晃弘さんの仕事場「癒し処～KAITO～」

Iターン経験者は、語る。 Vol.1

海藤晃弘さん 由美子さん 悠太くん〈獅子〉

2011年7月、頓原ラムネ銀泉の施設内にオープンした「癒し処～KAITO～」。「一人でも多くの患者さんの笑顔を見ることができればと思っています」と話すのは、店主で整体師の海藤晃弘さん。5年前、栃木県から夫婦で島根県（大田市）に移住、飯南町で開業。その後、悠太くんが生まれます。昨年7月には、職場のある飯南町に引っ越し、現在は家族3人、獅子で暮らしています。

移住のきっかけは東日本大震災、原子力発電所の事故

整体の仕事も軌道に乗り、家も買おうかというときに起こった原発事故。体調を崩し、栃木県を離れます。3ヵ月の放浪生活の末、「自然と共に生き、自給自足をしながら、患者さんの施術をしたい」と思い移住を決断。島根県は災害が少ないと聞き決めたとのこと。「移住当初の大田市から、昨年7月に獅子地区の空き家を購入させて頂き引越しました」。空き家の購入時には、銀行の融資に対する借入利子を補助する町の制度を利用しました。

地域の暖かさを感じながらの生活

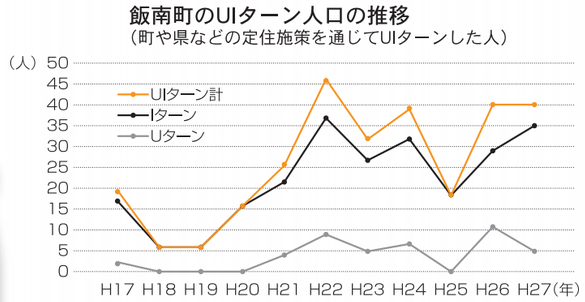
晃弘さんは整体、由美子さんは出雲の生活用品を扱うお店で働いています。その傍ら、お米も作っていて、今年は営農組合に入り、コンバインにも初めて乗ったとのこと。「この田んぼは耕作放棄地で、イノシシもやりたい放題、水路もどうなっているのか分からない状態。地域の皆さんの協力もあって、作付けが出来ました」

今まで、仕事の関係でいろいろな場所へ引っ越してきて、疎外感を感じたり、閉鎖的なところも多く、住みづらく感じることも多かったのだそう。「都会では、隣近所が誰なのかも知らないし、自治会の集まりもない。ここでは、お祝いごとも、地域で喜びを共有するところも素晴らしいなと思います」

取材中、ちょうど通りかかった地域の皆さん。「この子は獅子の宝だわ～」と言って、悠太くんの頭をなでる姿に、地域の暖かさが溢れていました。

夢は自宅でお店を

「整体のお店とカフェを自宅でやりたいと思っています」。理想は自分たちで作った野菜やお米を使ってお店をすること。「家も買ったので、こっちに骨をうずめるつもりで、地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思っています」



Iターン経験者は、語る。 Vol.2

大井 太さん 玲子さん〈小田〉

「い～にゃんがいるところにこの人あり」といっても過言ではない。飯南町を知ったきっかけは、ご当地キャラ博in彦根で出会った“い～にゃん”。「雨の中、一生懸命に町をアピールする姿に、い～にゃんの向こう側に飯南町が見えました。ただ単にかわいいだけじゃなくて、大事にしたいっていう気持ちが強いんです」と話すのは、東京からIターンし、平成26年3月から小田で生活する、大井太さん、玲子さんご夫婦です。

マイナスの話が逆に興味をひいた

平成25年10月、東京秋葉原で開催されたしまねUIターンフェア。「相談会へ行くとどの自治体も、うちの町のここがいいとか、好待遇だよという話ばかり。そんな中、『あれもない、これもない、コンビニは少ないし、ガソリンも高い、雪は多いし、仕事も都会みたいに選択肢が多くないし、大変ですよ』と話を聞いたのが飯南町。『定住フェアでその話!?』という感じで驚きでした。でも確かに、良いことばかり並べても、定住にはつながらないですもんね。とりあえず来てもらうではなくて“定住”まで考えると、そういった話は大切。ありのままを話してもらえたことが、信頼にもつながりました」

引っ越してきて早々入院・・・

3月に引っ越してきて早々、太さんが病気で入院。決まりかけていた仕事も断られるだろう、また一からか…と思っていたとき、「『心配しないで、病気をしっかり治して。仕事は全力で探すから』という役場の定住担当の人からの言葉が、すごく心強くて。会社も退院を待っていてくださいました。この町にとどまれた大きな理由の一つです」

地域との強いつながり

飯南にきてほんの数週間というとき、熱を出して寝込んだ玲子さん。そんなときに、代わる代わる地域の人が心配して尋ねてくださったという。「都会では考えられない、地域のそんな暖かさに感動しました。こんな、暖かい地域をとても気に入っています。元気もあって、すごく居心地がいいです。イベントやお祭りも地域の人と一緒に楽しんでいます」

ぶなの里で働く玲子さん、地域の皆さんとの会話が弾みます

東京ではタクシーの運転手、その経験を生かして頑張っています

田舎だけど何でもある

「ものすごく贅沢ですよね。野菜も消費しないといけない、無駄にしないように頑張って食べるくらいで。住んでみて感じたのが、飯南町って程よい田舎だなと。出雲も三次も1時間以内で行けますし。マーケット、ホームセンター、コンビニ、病院もあるし、町内でおおよそ間に合いますよね」

足りないのはなんですか?とお聞きすると、「…インターネットの速度?それくらいですね」と笑いながら話されました。

皆さんと一緒に飯南を盛り上げたい

多くの人に飯南町を知ってもらい、来てもらいたいという思いから、これからもい～にゃんを応援していきたいと思っています。町内の皆さんと様々なことでつながれるよう、積極的に参加し、地域の一員になれればと思っています。

お気に入りの自宅2階から見る田園風景